

新潟県

# 公民館月報 12

平成11年12月号 通巻第562号



表紙 重文目黒邸  
舞い落ち葉コンサート  
(守門村公民館)

特集 人権・同和教育の推進

視点 “お茶の間”から“書齋”へ  
ひろば 残光

実践記録 宇宙に夢とロマンを求めて

サークル交流 カラオケ同好会(三条市大崎公民館)  
サークル弦(粟島浦村中央公民館)

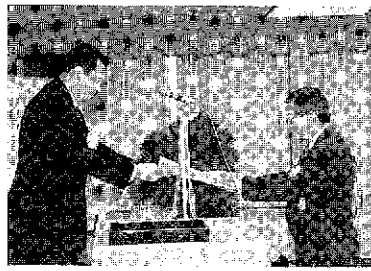
素顔拝見 佐野恵子さん(栃尾市)

羽鳥良夫さん(申里村)

平成十一年度

文部大臣表彰を受賞して

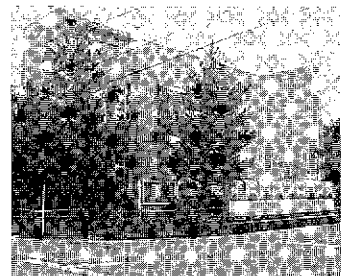
柏崎市柏崎公民館



第52回(平成11年度)優良公民館表彰

秋涼の小雨にけむる霞ヶ関ビルにおいて、十月二十七日晴れの全国優良公民館表彰を受賞させていただきました。全国四十カ所の公民館の仲間とともに、小此木文部政務次官から直接表彰状授与の栄に浴しました。更に皇居宮殿波の間において、天皇、皇后両陛下のご拝謁を受けるとともに、ねぎらいのお言葉を賜りました。これもひとえに県生涯学習推進課、中越教育事務所、県公民館連合会をはじめ、ご指導いただきました関係各位のご支援の賜と心から御礼を申し上げます。

柏崎公民館は市役所に隣接した市街地中央部に位置しております。職員は館長以下十六名です。すが、生涯学習社会への対応を視野に入れた生涯学習課との兼務体制をねらっています。市内二十四の地区公民館における地域と密接した公民館活動とキャッチボールをしながら、生涯学習推進の拠点整備や啓発を行うという二つの側面をもった業務に取り組んでおります。公民館の果たす役割の一つは、地域に暮らす人が触れ合い、学び合いながら、人と人のつながりの輪を少しずつ広げていくことを陰で支えることではないでしょうか。幸いにして柏崎の公民館は地域に張りめぐらされた二十四の地区を公民館がまさに毛細血管の様に住民の中に入り込んで、様々な情報を送り込み、また活動の起爆剤となって地域を支えています。家庭教育や世代交流、ふるさと学習推進など、上手に課題学習に住民を導き、楽しみながら学ぶことで館に多くの方々を集めてくれています。最近では特に子育てグループの育成や、子どもを媒体とした若い父親、母親へのアプローチにも力を入れています。柏崎公民館の業務は、この地

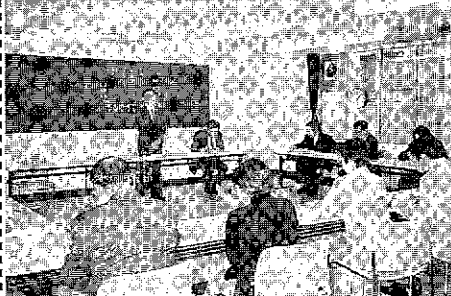


柏崎市柏崎公民館

区館の活動が集大成されたものであり、今回の表彰も地区館の事業展開があったからこそその受賞と考えています。柏崎公民館においても三十年の歴史をもつ寿大学や、子供おもしろ探検隊、市内二つの大学との連携講座など、生涯各期を意識した企画を実施しています。全市民的な広がりにはやはり限界があり、地区館でのキメ細かな学びが、柏崎の公民館活動そのものと言っても過言ではありません。今後予想される学社融合の動きや地域の教育力向上の課題、また地域の中で自ら支え合いボランティア活動など、公民館にも新しい対応が求められています。既存の概念にとらわれることなく、地域と手を結んで、生涯学習社会における学び合いの支えになる公民館として努力してまいりたいと考えております。皆様、なお一層のご指導をお願い申し上げます。

下越公連第2回評議員会開催さる

平成11・11・16 (火)新潟市中公で



今井会長あいさつ

下公連第2回評議員会は、11月16日予定どおり開催された。議事としては、(1)下公連役員研修会の報告、(2)来年度同研修会の概要計画案が提示され、また(3)来年度原公連50周年記念兼県大会の概要案も提示され、承認された。報告書もきっちり作成、次年度への概要計画案も提示される等、その早期対応には感心した。なお十四年度樹プロ大会候補地についても話し合われた。

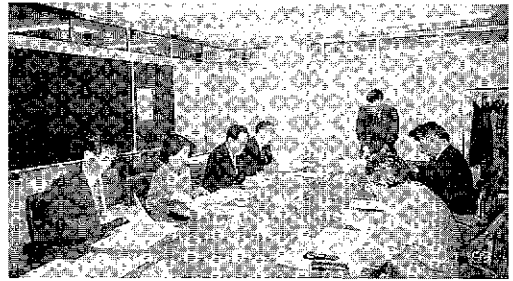
県公連・県公振連関係 栄えある受章者・受賞者

- ◆秋の叙勲
  - 勲六等瑞宝章 元津南町公民館主事 滝沢秀一様
- ◆社会教育法施行50周年記念 社会教育功労者
  - 文部大臣表彰 元十日町市公民館主事 佐野良吉様
  - 同右 加茂市公民館須田分館長 難波一也様
- ◆新潟県知事表彰(一般功労)
  - ▽地方自治 前県公民館振興市町村長連盟会長 近 寅彦様
- ◆新潟県教育委員会教育功労者表彰
  - 〔社会教育〕 新発田市公民館運営審議会委員 中野 滋様
- ◆新潟県芸展II会員賞
  - ▽TENY賞 彫刻 月瀧村公民館長 植村 脩様
- ◆新潟出版文化賞
  - ▽文芸部門賞 頸城村公民館長 外ノ池一様

### 臨時理事会・評議員会開催さる

平成・11・11・26(金)

於新潟市中央公民館



### ◇県公連創立50周年記念事業計画案協議・承認される

1. 記念式典・記念祝賀会
  - ・第51回新潟県公民館大会と併せて行う。
  - ・期日 平成12年7月19日(日)
  - ・会場 聖籠町町民会館
  - ・内容 記念式典(表彰式含む) 記念講演(中央講師) 記念祝賀会
2. 記念誌の刊行
  - ・40周年記念誌並み・平成13年3月刊行の目途
3. 新潟県公民館月報の保存
  - ・公民館月報200号(終戦直後で紙質粗悪) CD-ROM化保存
4. 各種研修会、研究大会を冠大会に
  - ・上・中・下越地区公民館職員等研修会に県公連創立「50周年記念」の冠をつける。
5. 平成12年度新潟県知事表彰(団体)申請予定

## 視点

「学校のスリム化傾向は社教の肥満化につながろう。」  
 当町社教課係長との冗談話である。

「学校も忙しさ等からも必ずしも歓迎されない面もあった。学社融合の接点と想っていたが。」

生涯学習は、社会教育のみでなく行政全体を包摂し、中核的役割を首長部局が果たすとの認識で

感がしなくもない。必置ではない推進会議と依然審議機能の弱い社教委、この度必置ではなくなる公運審との関りや役割にどう対処していくか等、地方分権一括法による社教法の改正に戸惑

「のびのび新潟っ子」の補助金を受けた管内小学校とのタイアップ事業は、学校に分館設置の事情もあり、学校本務の多

### 「お茶の間」から「書齋」へ

土田 明

取り組んできたが、昨年の国の生涯学習審議会答申では、社教行政は「生涯学習社会の構築に向けて中核的役割を果たさなければならなくなった。前に戻った?

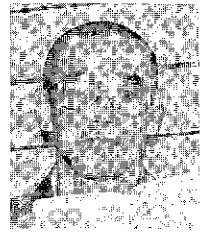
いは隠せない。ようやく整備したラ・ラネットに代わって新たにインターネットへの提言、子供センターのエリアや同放送局の動き、高校通学区、広域相互利用、広域圏

構想等によつてはエリアが交錯し、見えにくい。ミレニアムを迎える公民館も、学校と塾の如く、民間のカルチャーセンターとの相関も視野に入れ、趣味愛好者の「お茶の間」に加えて、相互学習と共に自己学習の「書齋」としての立場を担うなど、世間や地域の動き、行政の指針、時期等を的確に捉えて対応していく視点が必要であるう

か、草創以来五十年を経た公民館の先々を見守りたい。  
 (寺泊町公民館長 土田 明)

## 残光

安塚町公民館運営審議会委員 岩崎 英 宣



この秋、ラジオ体操第三が誕生したという「AERA」の記事に放送の歴史が水解した。一九四九年、私が入学した小学校には中学まで併設されており、ただでさえ狭い雨天体操場で朝会の後で手をぶつつけそうになってした体操が、なぜか「せいきあけゆく、せいほくの」だったのだ。腕を回して跳ねる出だしだけしか憶えていないし、それが新潟県民歌だと知ったのはずつと後のことであるが、たまたま敗戦後に作り直されたラジオ体操が普及せず

に放送中止となっていた四年間に遭遇したからだったのである。ラジオ体操第一第二が年を追って発表される中、小黒中学校も下の川原に新築されて、グラウンドも桜の木陰までも開放され、空き教室では冬の間だけ、誰だったかのお母さんがお針の先生として、せいねんがっきゅうが開かれるようになった。この少年の記憶はここでパタッと

## ひろば

きれてしまふのだがこの後一〇年、中学校が沼木分校を吸収して寄宿舎が置かれた頃、「おらがふるさととはひがしくびき」という歌い出しで、この地の四季を言葉につむぎあげ中学生の口に、青年学級やら4日クラブへとじわじわと歌い継がれていった。「東頸城の歌」が歌集に載るまでに広がりを見せていく中、婦人会とならび地域を束ねていた連合青年団の単位が急激に陰りをみせてきた。

あれは全国組織の分担金の整理のためだったのであるろうか、くだんの四季の詩を手ぬぐいに染めて、激少ない青年団員が幾晩も邑のすみから隅まで、そんなことでもなかつたら訪ねることのないお年寄りだけのお宅までお願いに歩いた。もちろん金銭的な目的はたつたが、さらにふだん見れなかつたものが見えたという言葉がのこった。

青年学級振興法は今、すべてのお役をおえてか廃止となつた。

# 教育の推進

## 社会同和教育の推進

守ろう人権 住みよい市

この市に住んでよかったと  
だれもが思えるように  
心の底から語りあい  
お互いの心を結びあおう  
人の心を傷つけず  
お互いの人権を尊重しあおう  
そうして 差別のない  
住みよい市づくりを進めよう  
そのために努力する人達の心  
の輪を広げよう

(岐阜市人権学習資料より)

### 一、はじめに

新発田市では、市長部局の総合管理部総務課人権擁護室、教育委員会の教育部生涯教育課を中心に各種の事業を展開しています。そうした取組みの中から、社会同和教育事業について紹介させていただきます。

### 二、人権擁護都市宣言

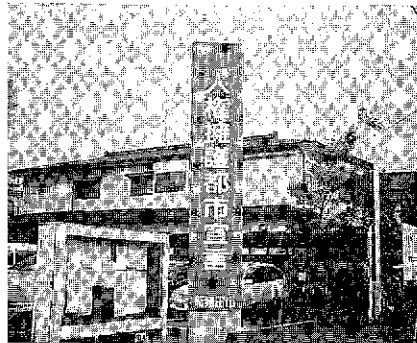
日本国憲法と世界人権宣言にうたわれている基本的人権の尊重とあらゆる差別の撤廃は、今や国内のみならず国際社会においても緊急に解決しなければならぬ課題になっている。

よって、本市は、市民一人ひとりの人権が尊重され、部落差別をはじめとするあらゆる差別や偏見のない地域社会の構築が急務であることを認識し、すべての市民の人権が等しく保障され、差別のない明るいまちづくりをめざし、本市を「人権擁護都市」とすることを宣言する。

一九九七年(平成九年)

三月二十六日 新発田市

同和教育をはじめ、あらゆる差別をなくし、市民一人ひとりが心豊かで安心して暮らすことのできるあたにかいまちづくりをするため、市議会の決議を受けて上記の宣言を行いました。市庁舎前にも看板を設置し、市民の皆さんへの啓発に努めています。



### 三、同和教育PTA講座

平成五年度から実施している事業で、学校での同和教育と並行して、保護者から、同和教育の現状や課題についての正しい認識を得ることや人権意識の高揚を目的に三回の連続講座として開催しています。

現在は、市内七中学校で順次開催しており、今年度で一巡します。

受講生は、各学校のPTA会長及び学校長に推薦を依頼し、各回とも三十五名程度となっています。

講師は、市の社会教育指導員が中心ですが、この講座の二回目は、外部から講師を招き、受講生だけでなく、対象となっている校区の保護者や社会教育関係委員などにチラシを配布し公開講演会としています。

近年は、グループ討議など参加者の話し合いを中心にした講座の運営を心がけています。



### 四、同和教育講演会

昨年の講演会では、奈良県在住の落語家、露の新治さんを講師にお迎えしました。身近な話題について具体的に取上げながらわかりやすく、また、おおいに笑い、そして考えさせられる内容で参加者からも好評を得ました。

### 五、市民啓発広報

平成七年度から実施している事業で、「広報しばた」(月二回発行)の十月から三月までの毎月十五日号に「みんなで考えよう同和教育」と題し、七百字程度でコラムを掲載しています。

内容は、各地で起こった部落差別の現状についてや被差別部落の人々の優れた技術や文化の紹介、人権作文や詩、コラムを読んだ読者の感想など多岐にわたっています。

広報を読むことにより、多くの市民が同和教育について考えるきっかけとしてもらえればと考えています。

また、人権週間に近い十二月一日号には特集を組んでいます。





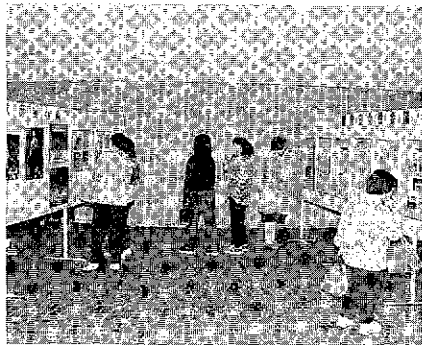
# 特集 人権・同和

## 新発田市における

### 六、人権フェスティバル

同和問題の解決をはじめ、人権の擁護をテーマに、人権擁護都市宣言の意義を市民とともに考え、人権意識の普及を図ることを目的に、講演会を中心に、人権パネル展やミニコンサート、人権相談などを実施しています。特に、講演会では、各界の著名人を講師としていることから参加者も多く、女性を中心に幅広い年齢層の参加を得て好評を得ています。

今年度は、新発田女性会議や非核平和新発田市民の会のみならずとも連携することができました。今後も、行政だけではなく市民の皆さんのご協力を得ながら、みんなで作り上げるフェスティバルをめざして行きます。



好きです、差別のないハートピアの町

- ・誰れもがみんな幸せになる権利を持っています。
- ・そして、誰れにも他人を差別する資格などありません。
- ・人と人がお互い思いやり、助け合う……。
- ・そんな温かいハートピアの町をつくりましょう。

(鹿兒島県入来町人権啓発資料より)

### 七、新発田市隣保館

人権擁護都市宣言と同じ年の四月、新発田市隣保館が開館しました。

同和問題の早期解決をめざしたこの施設は、木造二階建てで家庭的な雰囲気をもち、学習会や現地研修会をはじめ、以前に教育集会所で行っていた職字学級や子ども学習会、いけ花教室、書道教室といった事業のほか、町内会や育児サークルをはじめとする多くの文化活動に利用され、地域交流の場になっています。



### 八、今後の課題

新発田市では、平成五年度に市民千六百八十人を対象に「人権と同和問題についての市民意識調査」を実施しました。

表1でもわかるとおり、同和問題を「知っている」人は三人に二人でしたが、同和地区の起源について正しい回答をした人は

表1 同和地区の認知とその起源

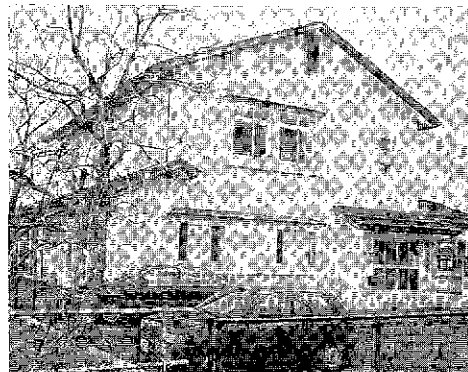
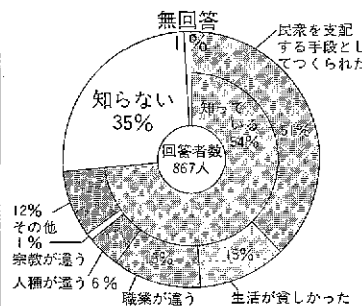
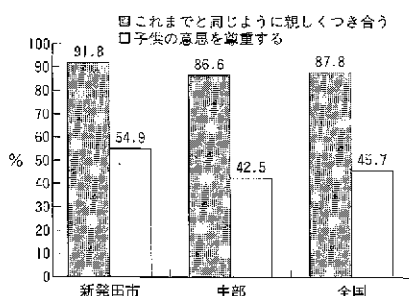


表2 隣近所との交際と結婚に対する意識



は、同和問題を「知っている」という人の約半数に過ぎません。また、表2のとおり、日ごろ親しくしている人が同和地区の人であることがわかった場合、ほぼ全員がこれまで同じように付き合うとしています。結婚という同和問題と「自分との距離」が近づいた時には、数字が大きく減少してしまいます。これは部落差別の厳しい現実が頭をもたげてきているのです。

このような課題の解消のため、これまでの、講演会をはじめとする一方通行の研修会から、より参加型、体験型の学習会への転換をめざしています。

今後も、市長部局や学校とも連携をより深めながら同和教育の一層の推進を図り、同和問題の早期解決のため取り組んでいきます。

# 実践記録シリーズ(39)

## 宇宙に夢とロマンを求めて

### 「少年天体観察クラブ」

#### 新潟市北地区公民館



1、はじめに

この事業が始まる前の当公民館の少年対象事業は、ウォーク・ラリー大会、キャンプ、クリスマス集い、映画会、各種クラブ等、継続的な事業ではなく、イベント的な体験事業が中心に行われて来ました。単発

的な少年活動は育たないかと懸念されることから、企画委員を地区内の少年団体指導者や有識者に依頼し、企画委員を地区内の少年指導員や有識者に依頼し、企画会議を開き、次の三つを考慮し事業を企画することになりました。

#### ①学校で行

うことが比較的難しいもの。

#### ②親子で継続して学習出来るもの。

③地区内の指導者で行える事業であること。

以上のことを念頭に、企画会

議を重ねた結果、天体観察を目的とした事業を行うことになりました。

天体観察は、夜でないとい出来ないで、親子参加が原則になりますし、当公民館は、新潟市の中では比較的夜間照明が少なく、天体観察するのに適している。

地区内に天体観察を趣味にしている良い指導者がおられることから、「少年天体観察クラブ」を開催することに決まりました。

#### 2、プログラムについて

平成5年度から、少年天体観察クラブを開催し、今年で7年目を迎えました。地区の子どもの達の縦の繋がりを持たせようと、対象を小学2年生と6年生と幅広くした関係で、受講者に理解度の差があるため、指導者にご苦勞をおかけしております。

天体観察は雲が出ていたり出来ませんので、2通りのプログラムを考えなければなりません。

ん。天体観察が出来ない場合には、ビデオ学習やクラブ等を取り入れ、楽しく学習出来るよう考えて企画しています。

なお、天体望遠鏡作りと天体観察を主とした年と、四季の星座表作りと天体観察を主とした年がありますので、2カ年継続して参加する家庭が多いようです。

#### 3、参加者の様子

白作の望遠鏡で、初めて星の観察を行った時などは、「見える見える」と声を上げ感激していますし、土星の観察を行った時は、「ワースト」と美しさに感動しています。

大きなオレンジ色の流れ星を偶然観察出来た時などは、自然と皆で拍手をしていました。

そして部屋へ戻っても感動が納まらず、流れ星の光跡を話し合い、自然現象の素晴らしさを満喫している様子でした。

なお、受講者の保護者は父親が多く、仕事が終わってからの参加ですので、夕食を取らずに来るようですが、子どものためとはいえご苦勞をお掛けしていると思います。

4、おわりに  
自然現象で、感動を与えることは難しく、しかしその瞬間を体験した子ども達は、宇宙の神秘の素晴らしい体験を手に入れることが出来ます。

それを同時に体験した子ども達の友だちの輪が広がり、地域活動に結びつくのではないかと私は思います。また、子ども達は何げなくみている夜空に、素晴らしい体験が隠れていることを知ることにより、いろんな自然物に対する探求心に繋がることを願って、これからも「少年天体観察クラブ」を続けていきたいと思っています。

月・日	曜日	時間	内容	講師
5・13	木	午後7時   午後8時30分	星座表を作ろう	元新潟天文会々長 高橋 邦夫
20			一番星を探せ!	
6・10			夏の星座を探そう!	
7・8			流れ星を見よう	
8・5			秋の星を探そう!	
9・9			木星・土星を見よう	
10・7			獅子座流星群のお話	
11・4				

# サークル交流

### 唄う楽しさ

#### カラオケ同好会

今のご時世に歌の一つも唄えない。本当に自分ながら呆れておりました。或る会に出席した時、皆さんがあまりに活発でカラオケに合わせて唄い・踊る姿を見て大変羨ましく思い、友人と私達もせめてカラオケ位出来るようにと加入者を募り、友が友を呼び今では15名になりました。念願がなつて大崎公民館を会場に同好会が発足し2年目、毎月3回火曜日を練習日としています。

先月他のサークルと合同で、25名程で老人ホームへ慰問に行つてきました。大変和やかで入居者の方々にも喜んでいただき、唄う事の楽しさをしみじみ感じた有意義な一日でした。

(三条市大崎公民館 カラオケ同好会 山田 ノリ 記)

#### 日本海にひびけ!

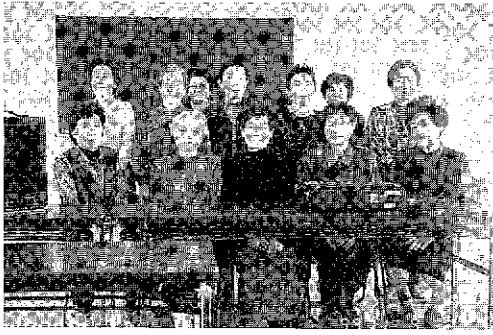
#### ギターと大正琴のハーモニー

#### みなさんこんにちは!

私達は、ギターの弦と大正琴の弦が奏でる美しい音色にひかれて誕生した、粟島では唯一のグループサークルです。今から八年前、ギター九名、大正琴七名の計一六名でスタートしました。小学一年生から五〇代までの幅広い年齢層で構成されてい

ましたが、八年も経つと中学生は高校生となつて鳥を離れたり、諸般の事情によりやめた人も出てくるなど、今では十名ほどになつてしまいました。それでも月一〜二回の練習日を設け、年一回は発表会をするなど地域に存在をアピールして、和気あいあいの中にも楽しく頑張っています。しかし、粟島には教えてくれる人がいないので、遠く新潟から泊まりがけで来ていただいております。講師の都合で、その月の練習日が決まり、冬期間は欠航することもあるの、予定通りいかない面も多々あります。継続することの難しさを痛感しているこの頃です。

(粟島浦村 サークル弦 本保 敦子 記)



## 栃尾市公民館

### 庶務係 佐野恵子 さん

細身でショートヘア、時たま男性(?)に間違えられたと憤慨するが、彼女の存在は大きい。学校教育課、社会教育課を経て公民館二年目であり、口も身体もよく動く彼女には、うつつの職場と思う。得意技は整理整頓、時には大事な物もすてられしまふが、お陰で倉庫・書庫など すつきり使



いやすくなつた。庶務ばかりで

なく業務も積極的に受け持ち、そこにいるだけで、パワーが溢れるようだ。特にそのパワーは夕暮れと共に一段とアップする。又、家庭では、土日ともなれば、長男のシニアリーグの応援に大声張りあげ、人一倍の教育ママでもある。栃尾市の公民館にきた時は、まず中央の一番目につく所に陣どつているのが彼女です。とにかく、我が公民館になくてはならない潤滑油のような人材です。

(栃尾市公民館 高橋 久美子 記)

## 素顔 拝見

## 中里村公民館

### 主事 羽鳥良夫 さん

生涯学習課に改名になって初年度目の記念すべき年であるが、職員の課長を除く他、全員(三人)新入生になり苦戦の日です。その中で特に目立つ大男の羽鳥君を紹介いたします。



かわりに用立てしても少しも苦にせず濃厚、冷静です。

しかも洞察の鋭敏な事は、初めての仕事とは思えない。大仏様と呼んだ人もいたが、人格と体格といえピタタン。

大きな行事が終わつても、次から次へと仕事が入ってくる公民館の勤めであるが、プラネ定期投影のシナリオ作成同様、自の結婚へのシナリオにも期待したい。

(中里村生涯学習課 鈴木 孝幸 記)

# NAMARAからの発信!!

はじめまして。  
新潟を拠点として、全国区をめざしますお笑い集団「NAMARA」と申します。  
旗揚げから2年半。「お笑い」を武器に、地域と密着した様々な活動を行ってきました。学校関係、福祉関係、町おこし関係、同封の資料をご覧ください。ただこれだけではお分かりになるかと思いますが、幅広い範囲で「お笑い」を提供しております。  
「お笑い」とは、頭で考える「発想」と、それを具体的に伝える「表現」が合わさって初めて成立します。  
例えば、いま置かれている環境(現状)を良くしたいと考え、その考えを実現(行動)する行為は、僕らにとっては「お笑いの感覚」なのです。ですから、あらゆるジャンルや環境に適用できるのだと思います。

つまり、「お笑い」は最強の武器と成り得るのです。  
これまで公民館との関わりは何度かありました。先日は見附市の公民館の方々と一緒に今明中学校で、PTA主催の公演をさせていただきました。これからはNAMARAと公民館との関係による催し物も多くなるかとも思います。  
そこで、我々の活動を多くの人に認知していただければ、公民館と公民館に関わる様々な人たちの交流が生まれると思い、我々の活動の一端でも、「公民館月報」にご紹介していただければと思っておりました。3年目を迎える我々は、まだまだ未熟ですが、さらに精力的に、新潟と関わっていきたく考えておりますので、よろしくお願ひ致します。

**NAMARA事務局**  
☎950-0905 新潟市天神尾1-22-2  
☎025-245-1091  
担当/樋口 加藤

## NAMARAの特徴

- 現在、芸人48人(内プロ9人)、スタッフ35人(内専属2人)で構成されているNAMARA。左記の出演リストの他にも、NAMARA小団「加藤建築」における自主ライブ、ラジオレギュラー番組、TVラジオCM出演、パーティー司会、野外イベントなど様々な活動を行っております。
- あらゆるジャンルに対応するために、事前に打ち合わせや調査を兼ね、要望を最大限に取り上げ、その場に相応しい「お笑い」を提供することに心がけています。
- 役者、コートの他に、会場の方々と一緒に楽しめる参加型コーナーなどを盛り込み、会場の一体感を作り出します。
- 行政関連のイベントといえば、難しい、堅い、真面目といったイメージですが、NAMARAが関わること、難しい内容を簡単に、柔らかに真面目に伝えることができるようです。
- 新潟の県民性といわれる「ネ暗で引っ込み思案」。そんなことはない。ネ暗で引っ込み思案は一首のこと。その証明にNAMARAは、元気に積極的に活動を続けていることが受けている。
- 立ち上げ当初は、10代から20代が対象でしたが、最近では子供からお年寄りまで、幅広い層にまで対象が広がりました。
- お笑いライブの他にも、講演会なども呼ばれるようになってきています。

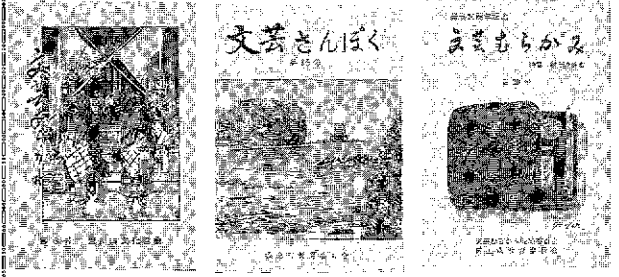
今年も県北の三市町より、時期を同じくして文芸誌が惠送されて参りました。  
発刊からの経緯はそれぞれ長所と特徴がありますが、内容面ではいずれも随筆、短歌、俳句、

川柳、詩、コント、評論、小品等から構成されており、紙面とおしての投稿者、読者の心の交流が図られておるようです。それでは、今後ますます内容面の充実を望みます。



### 惠贈資料紹介

- 「文芸むらかみ」第二十号
- 文芸むらかみ編集委員会
- 村上市教育委員会
- 「文芸さんぼく」第十五号
- 山北町教育委員会
- 「文芸あらかわ」第六号
- 荒川町教育委員会



**表紙解説**  
重文目黒邸  
舞い落ち葉コンサート  
11月9日、リコーダーの吉沢実さんらによる演奏会が開催され、豪農の館に美しい調べが奏でられました。  
(守門村公民館)

発行所 新潟県公民館連合会  
〒951-8053  
【新潟市川端町2-9・県林業会館内】  
【TEL・FAX (025)224-6073】  
発行人 会長 今井昭友  
編集人 事務局長 鈴木友夫  
【定価1部150円 年共・年極1,800円】

◆県公連創立50周年記念事業の準備にそろそろ入らねばならなくなりました。いろんな面で大変かと思っておりますので、皆様方のご支援、ご協力を期待しております。

◆'99もあと十数日で去ろうとしております。いよいよ2000年に入りますが、皆様方それぞれ良い年をお迎えください。  
(鈴木記)

## 年末の交通事故防止運動

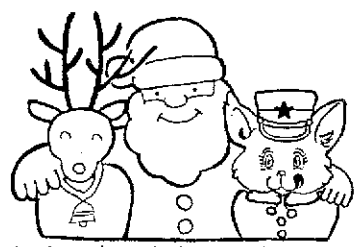
平成11年



新潟県実施要綱  
12/11 ~ 12/31

スローガン

来る年へ つなごう笑顔で 無事故の輪



新潟県交通安全対策連絡協議会  
後援・新潟県公民館連合会